

コ ン テ ン ツ	PMS資格試験 受験生 募集中 Lynn Crawford博士 招聘講演会ご案内 中国地区でP2Mセミナーを実施 P2M人材育成 地方・業種別研修会 実施 第1回「P2Mクラブ関西例会」実施 P2M早稲田大学オープン講座 受講生募集 企業向けP2M研修会 活発化 タイ・バンコクで東南アジア初のP2M研修会	vol17 2004.2	PMCCニュースレター
			 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター

積極的参加で飛躍の年に！



PMCC 武富理事

今年はPMCCとP2Mにとりましては、飛躍の年にしなければなりません。いよいよ、PMRの試験が実施され、本格的にPMの実践力を試す体制が整うこととなります。日本発信型のPMの資格体系が晴

れて整備されることになるわけです。

1980年代の後半に日本経済のバブルが絶頂期を迎えていた頃、米国にいた私は、米国が製造業の競争力の低下を憂えるのを肌で感じていました。マサチューセッツ工科大学で製造業政策を教えていたCharlie Fineという教授は、家電、自動車の次は航空機が日本に取って代わられるだろうと真顔で言っていました。

競争力強化のために製造業はハイテクへとシフトしていき、ボーイングは10年で1兆円というデジタル化投資を行い、777という飛行機をデジタルで開発しました。現在、このデジタル化では日本は10年近い遅れをとっています。その次に米国が手を打ってきたのは、ルールのグローバルなデファクト化です。アメリカ版のPMもその流れの中で出てきています。

世界で進んでいる技術や知識をマスターすることは企業や個人が競争力を強化する上では非常に重要ですが、それらがルール化された場合にそれを超えることは非常に難しくなります。ましてや、中国や他の国々の追い上げが激しい中で、他国のルールをマスターしただけでは、中国をはじめとするほかの国々の人々と競争していくことは容易ではありません。

P2Mは日本発信型のPMのスタンダードとして、グローバルデファクト化を目指していきます。それは日本人がものだけではなく、知識の世界でも競争力を持つということです。

今年は、PMCCはアジアでは年初よりタイで普及活動を行い、グローバル化に向けヨーロッパやオーストラリアのPM団体と更なる連携を強化し、国内では大手企業がこぞってP2Mを取り入れるような活動を続けていくこととなります。

このニュースレターを読んでおられる方々には、この資格体系が世界のデファクトスタンダードになるための活動に多いにご支援、ご協力を賜りたいと思っております。私もデファクト化に惹かれてこの活動に参加しますので、積極的な参加をお願いいたします。

PMS 資格試験 受験生 募集中

来る3月28日（日）、平成15年度第2回（第4回）PMS資格試験が実施されます。今回は東京・京都・札幌・広島・名古屋の全国5会場で実施いたします。

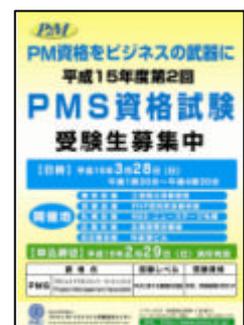
受験申込書の締切は、2月29日（日）（当日消印有効）

- < 東京会場 > 工学院大学新宿校
- < 京都会場 > PHP研究所京都本部
- < 札幌会場 > NSS・ニューステージ札幌
- < 広島会場 > 広島国際会議場
- < 名古屋会場 > 中産連ビル

申込締切：2月29日（日）（当日消印有効）

試験結果の発表は、4月28日（水）を予定しています。詳しくは、PMCCホームページでご確認下さい。

また、募集ポスターを作成いたしましたので、会員企業におかれましては、社内に掲示し積極的な受験応募のご推奨をお願いいたします。



PMS 資格試験
受験募集ポスター

Lynn Crawford博士 招聘講演会ご案内

2月3日(火)、シドニー工科大学教授 Lynn Crawford 博士を招聘して「P2Mクラブ特別講演会」を開催します。

今回は、Lynn Crawford博士の講演以外にも、会員による5つのP2M実践事例の発表が行なわれます。

P2Mクラブ会員以外の方も誘いの上、奮ってご参加ください。

場所：アジュール竹芝 14F 天平の間

プログラム

- ・世界におけるPMの潮流
シドニー工科大学教授 Lynn Crawford博士
- ・わが社のP2Mへの取り組み
日本電気システム建設(株) 奈良 茂 氏
- ・P2Mによる企業年金の構築
中央三井インフォメーションテクノロジー(株) 平井 一志 氏
- ・ソフトウェア開発を失敗させないプロジェクトオフィスの活用法
(株)日立製作所 佐佐木 秀貴 氏
- ・P2M、CMMIに則ったプロジェクトマネジメント
(株)東芝 水野 隆 氏
- ・P2M資格と建設コンサルタントでの活用
(株)サンコー環境センター 本間 顯一 氏

ピーター・モリス氏招聘 P2M講演会を実施

去る11月4日(火)、ロンドン大学教授ピーター・モリス



氏を招聘して、P2M普及講演会を実施。参加者はP2Mクラブ会員と一般参加者で200名を超え、世界のPMの潮流とP2Mの優位性、今後のデファクト化への期待についての講演に耳を傾けました。

中国地区でP2Mセミナーを実施

中国地区で初めての「P2Mセミナー」を実施しました。

「P2M・山口セミナー」(12月12日) 参加者：69名

「P2M・広島セミナー」(12月13日) 参加者：45名

プログラムは、P2M研究所長 小原重信氏の「地域経済とP2M」、鹿島建設(株) 太田鋼治氏の「地方活性化のた

めのP2M」、りそな総合研究所 名取直美氏の「医療・福



祉・生活支援サービスのためのP2M」と地域経済に根ざした講演内容で参加者に高い関心を引きました。今後も地方のP2Mセミナーを企画していく予定です。

第4回 PMS講習会 全国で実施中

3月28日(日)に実施される平成15年度第2回PMS資格試験に向け、東京・名古屋・大阪・広島会場で、156名の受講生が熱心に講義を受けています。



P2M人材育成 地方 業種別研修会 実施

経済産業省の委託事業「人材開発プログラム」の地方研修会および業種別研修会が各地で実施されました。

四国地区 高松研修会 / 北海道地区 札幌研修会

高松研修会：10月25日(土)～11月16日(日) 受講者：23名

札幌研修会：10月31日(金)～11月22日(土) 受講者：40名

中小企業向け研修会

中小企業を対象とした業種別研修会が、10月10日(金)～11月1日(土)に茨城県水戸で実施されました。受講生は26名。地方研修会とあわせてPMS資格試験にも多数の受験者が期待されます。



第1回 「P2Mクラブ関西例会」を実施

1月20日(火)、在阪のP2Mクラブ会員を中心に「P2Mクラブ関西例会」を40名の参加者で実施しました。

例会では、(株)アリエシステムの松寿社長(関西委員会)の記念講演とP2Mクラブ会員によるP2M実践事例発表があり、関西地区メンバーの相互交流とレベルアップにつなげるべく今後も継続的に続けることを確認しました。

P2M早稲田大学オープン講座 受講生募集

事業創出・提案型ビジネスのエキスパート養成を目的とした、P2M早稲田大学オープン講座の受講生を募集中です。学生のみならずビジネスマンの積極的な受講をお薦めいたします

講座 事業創出・提案型ビジネスのエキスパート養成講座
価値創造型人材育成のためのP2M-
主催 早稲田大学アジア太平洋研究センター / PMCC
日程 2004年3月6日、13日、27日の3土曜日
場所 早稲田大学 アジア太平洋研究センター
申込締切 2月25日(水)

詳しくは、PMCCホームページをご覧ください。

企業・団体向け P2M研修会 活発化

企業・団体向けP2M特別研修会が大きな広がりを見せています。12月4日には、(株)ルネッサ総合研究所共催で「ソフトウェア協会」のP2M講習会を実施。12月22日には「独立行政法人国際協力機構（JICA）」でのP2M研修会。25日には「(社)海外コンサルティング企業協会（ECFA）」、26日には「芝浦メカトロニクス(株)」で経営幹部を対象としたP2M研修会を実施しました。また、12月には松下電器産業(株)での企業研修も実施しました。

会員企業におかれましても、自社の教育体系にP2M研修を積極的に取り入れ、P2M研修を人材育成にご活用下さい。
(敬称略)

会員企業紹介シリーズ

ゼッタテクノロジー(株)様 P2M発想を経営戦略の柱に

ゼッタテクノロジーでは、近年更なる飛躍を目指す上で「現状打破」の意識と実践力の育成が急務であると感じ、新しい経営戦略の構築を模索していた。その結果出会ったのが「P2M」であった。

P2Mは、プロジェクトマネジメントをベースに、日本で「PM」を新たな要素として加えて組み立てられた知識能力体系であり、既存の枠組

みにとらわれないリーダーシップと創造性、「広い視野」と「高い視点」を持つ総合的なビジネス構築力を有する人材を育成することを目指しており、この変化の激しい時代をブレークスルーできるのではないかと考え、本格的に導入することを検討し、PMCCまた社内でのP2M研修をスタートさせた。

その結果、04年1月現在、14名がPMS資格を取得し、さらに05年をめぐりに、役職者全員のPMS資格取得を目指している。社内では、P2Mの本

質を捉え、ゼッタ独自の行動指針とビジネススタイルを「DD-Pico（成果->設計->計画->実行->調整）」と「レパレッジ戦略」とし、実際のビジネスで実践することをスタートさせた。こうした活動により、P2Mが共通言語となり議論が活発化し、且つ日々の活動の取組みも迅速且つ的確になり、除々にP2Mの発想が浸透しつつあります。

今後、さらに社会に大きく価値創造ができるプロジェクト発信型企業への脱皮を目指してまいります。

タイ・バンコクで東南アジア初のP2M研修会

経済産業省の委託事業「人材開発プログラム」の一環として、東南アジア地区タイ研修会が1月12日(月)～17日(土)バンコクで行なわれました。対象は、プロジェクトマネジャーとその候補者、業務・組織改革を推進しているマネジャー、日系企業も含めたプロジェクトに関係している方々で、P2M人材育成を図るものです。受講者は日本人14名、タイ人28名の合計42名でした。



韓国 PROMAT 2003大会に参画

10月28日～29日に行なわれた韓国PM協会、PROMAT (Korean Institute of Project Management and Technology)2003年大会に、PMCCから飯倉専務と武富理事が参加。P2Mの国際普及・デファクト化に向けたブレゼンテーションを行ないました。

P2Mエグゼクティブ・フォーラムを開催

2月26日(木)に、高輪プリンスホテルで業界リーディングカンパニーの経営幹部を対象とした「P2Mエグゼクティブ・フォーラム」開催します。このフォーラムは、P2Mのデファクト化に向け、PMCC吉川会長を囲んでの意見交換会とP2Mのご案内をするものです。

PMS資格者認定マーク ご案内

PMCCでは、P2Mクラブ会員のための「PMS資格取得者認定マーク」を作成しております。P2Mクラブ会員の皆様に名刺・提案書等で積極的にご活用いただきますようご案内いたします。なお、認定マークは、PMCCホームページ「P2Mクラブ会員専用ページ」からダウンロードできます。



PMCC広場

～PMS資格試験合格者の一言～

外資系IT企業での技術職を経て、現在はとある印刷業の新事業開発部に所属し、IT技術を利用した新しい事業モデルの開発プロジェクトに参加しています。

現在日本では多くのIT企業やエンジニアリング企業に従事する方々が、PMを学んでいらっしゃるケースが多いようですが、私はPMを『あらゆる業種・業態に求められる、業務遂行のための専門職域（スキル）』としてとらえています。平易な言い回しをすると、PMとは会社（組織）の全体使命を最適に達成するための“段取り・仕切り術”とも言えると考えております。そのような意味ではプロジェクト・マネジメントも技術と同様の「専門知識」だと思うのです。

このような事を漠と考えつつ、PM関連のセミナーに参加していた中でP2Mに出会いました。

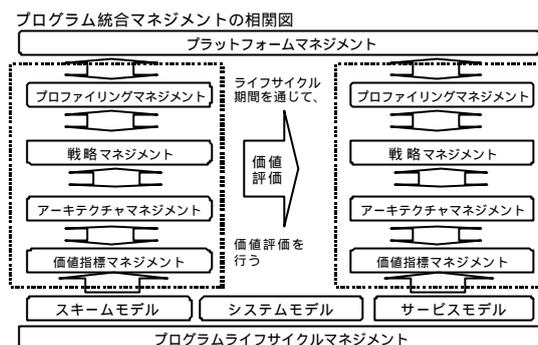
今までの狭義のPMにとどまらず『複数のプロジェクトを有機的に結合・最適化し、全体使命の達成を目指す実践力』を謳うP2Mは私にとって新鮮であり、かつ、私の求めていた“段取り・仕切り術”を体系的に教えてくれるものでした。テキストは広範であるが故に、新しい概念も多く戸惑う箇所もありましたが、読めば読むほどその解釈の意義は深く、試験勉強以上に普通の業務のために使ってみたい知識が満載でした。試験勉強と思うと気が重くなる場面もありましたが、その都度自分の業務に置きかえてシミュレーションを行い自分の疑似体験とすることで学習を進めました。

今後はP2Mで得た知識を普通の業務でいかに活用させていけるかが私の課題です。

庄司 佳世 様

プロジェクトマネジメントの歴史とその推移

今回はプログラムマネジメントとはどのようにして実施するのか説明します。プログラムマネジメントで重要なのは、プログラム統合マネジメントです。図で説明します。



プログラム統合マネジメントは6つの要素で構成されます。プロファイリングマネジメント 戦略マネジメント アーキテクチャマネジメント 価値評価マネジメント プラットフォームマネジメント プログラムライフサイクルマネジメントです。この他、図にはスキームモデル、システムモデル、サービスモデルが書かれています。プログラムマネジメントでは一般的に3つのプロジェクトモデルで構成されます。説明の都合上、この3つのモデルの説明をします。

スキームモデルとは構想計画を固めるプロジェクトモデルです。従来のプロジェクトでは、このスキームモデルは発注者側で実施していました。発注者は自己の要求を仕様書にまとめて、入札を行ってきました。社会の安定期であれば、発注者側で過去の実績をベースに仕様を固めることができましたが、社会の変化が激しい現在は、従来からの経験をベースにした知識では対応できなくなりました。そこで構想計画の段階から専門家に参画させ、要求仕様を固める構想計画書の作成を実施する企業が増えてきました。P2Mはそのために有効な発想を提供します。システムモデルはプラント業界でいえば、プラントのデザインから始まり、建設引渡しまでを実施します。情報産業でいえば、顧客の要求仕様にもとづき、システムを構築し、運用テストをして引渡しをするまでをいいます。サービスモデルは運用をいいます。ここでは運用によって種々の運用ノウハウを取得します。このナレッジを再利用することで新たな価値を生み出します。（芝 安曇）

PMCC
News Letter
vol17
2004年2月発行

編集・発行 / 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目4番6号 TEL :03-3502-4405 (代表) FAX :03-3539-1741
(分室) 〒105-0004 東京都港区新橋2丁目6番1号 TEL :03-3539-3022 (代表) FAX :03-3539-3023
さくら新橋ビル8階